

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。落ち葉が風に舞う季節と

なりましたが、お元気にお過ごしでしょうか。コロナ感染者数が50人を下回る報道に胸を撫でおろしています。総理大臣も交代し今後の日本経済への期待がもたれます。向寒のみぎり、お風邪には気を付けてお過ごしください。

サンライズの物語

何歳になっても努力を惜しまない——

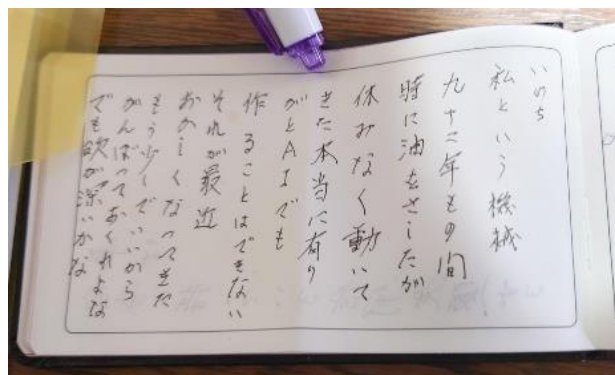
生き方について考える物語



その方は、奥様を亡くしてから一人で暮らしていた方でした。初めてお会いした時は全身の痛みの訴えが強く、椅子から立ち上がるのも一苦労という動作でしたが、人に迷惑を掛けるのが嫌だと、洗濯など時間をかけて自身で行っておられました。

通所介護を利用するようになり施設での運動を人一倍行っている間に体力が徐々に回復し、椅子からの立ち上がり時すくっと立ち上がったのには驚きました。高齢である事に甘んじずに努力を惜しまない姿に頭が下がる思いでした。

ある日の事、私が訪問すると自分の事を書いたメモを見せてくださいました。その文章の中の「油」の意味は介護に携わっている私たちのことを示しており感謝に絶えないとのこと。



以前、娘さんがアメリカの方と結婚し会いに行く為に英会話教室に通い、英語の勉強をし会話ができるようになったとのこと。毎日新聞を読んで分からない英語の単語を電子辞書で引くのが日課になっていると話されておりました。

福祉の世界でもケアマネの代わりにAIを導入する検討もあり、現に通所介護においては今回の法改正で「科学的介護推進体制加算」を付けたりしていることを見据えての文書に感じ入りました。

何歳になっても学ぶことや努力を惜しまない姿に自分を照らし合わせ、毎日、惰性に流されずに未来へ向けての備えをしなければならないと心に誓いました。

サンライズのデイサービス陽光だより



おやつ時間に
職員がクレープを作りました。
トッピングのフルーツとクリームは
各自お好みで…！
『初めて食べたよ～美味しいね～』と
大好評でした。

NEWS 今月のニュース

豊かな老後、仲間と耕す 美幌シニアの「男談農園」

農作業を通じて交流する町内の高齢男性の団体「男談（だんだん）農園」の活動が盛んだ。自分たちで栽培した野菜を味わう楽しみは3年目を迎え、芋煮会やカレーパーティーなどの行事も定着。50～90代の男性18人が、認知症予防を兼ねた第二の人生を和気あいあいと楽しんでいる。今年からは町内のグループに野菜を無償で提供し、喜ばれている。

■「認知症を予防、介護不要の楽しい人生を」

男談農園は2019年、町から「生活支援コーディネーター」を委嘱されている太田博美さん（76）が立ち上げた。高齢化社会で寿命が延びる中、太田さんは地域の高齢者の暮らしの調整役として、豊かな第二の人生を送るための交流の場をつくらうと考えた。

「男性が集まって談笑しながら農作業。だんだん人が集まる場に」と「男談農園」と名付け、元郵便局員や元自衛隊員ら会員15人でスタート。町元町に約340平方メートルの民有地を借り、トマト、ジャガイモ、ピーマン、ナス、枝豆など約20種を栽培して収穫した。

3年目になるとオクラやパプリカ、ラッキョウも加わり約30種に。当初は月2回だった活動が、今は毎週月曜の午前中に拡大した。

苗や種は農家や知人からもらい、栽培方法など分からないことは教わる。農機具は持ち寄りたり知人から借りたりして、ほとんどお金はかからない。農薬はほとんど使わず虫食い野菜もあるが、自分たちが食べる分なので、形も収量も気にならない。

作業、休憩の間に家族のことや世間話に花を咲かせ、畑の横で芋煮会も開くなど、料理の腕も磨く。当初から活動する町田芳文さん（74）

は「みんなで作った野菜はおいしい。わいわい仲良く、毎回楽しい」と笑顔。農場長を務める太田さんは「お互いに認知症を予防し、介護不要の楽しい人生を送りたい」と話す。

今年と同じ町元町に休耕地約2640平方メートルを無償で借り、二つ目の農園を開設。ここで採れた野菜は町内四つのグループホームに無償で提供した。カレーや煮物にして振る舞われ、利用者に喜ばれたという。



ジャガイモの収穫を楽しむ男談農園のメンバー

<北海道新聞 2021/10/22(金)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>